

特別展

蘭 繁 糸 之 の 手 仕 事

“美”にこだわった津軽の奇才



R A N S H I G E Y U K I

2010年 5月29日(土) — 7月11日(日)

開館時間 9:30~17:00 入場は16:30まで

休館日 月曜日

観覧料 一般400円(320円)、高大生200円(150円)、
中学生以下・65歳以上無料 * ()内は10名以上の団体料金

Hokkaido Museum of Literature
北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4
TEL.011(511)7655 FAX.011(511)3266
<http://www.h-bungaku.or.jp/>

施設設置者・北海道教育委員会 指定管理者・(財)北海道文学館
主催・北海道立文学館 (財)北海道文学館 後援・札幌市 札幌市教育委員会 陸奥新報社
協力・青森県近代文学館 弘前市立郷土文学館 弘前ペンクラブ

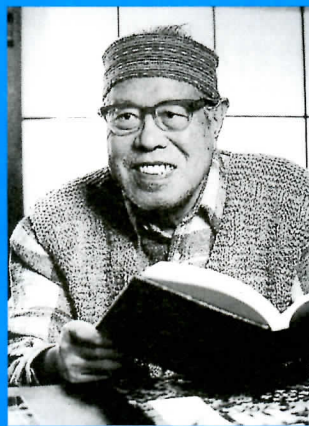
【交通案内】
地下鉄 南北線中島公園駅(出口③)または幌平橋駅(出口①)下車徒歩6分

美しい本たちに賭けた、津軽の奇才



「緑の笛豆本の会」を主宰し、装幀芸術家、詩人としても全国に知られた蘭繁之。石川啄木、川上澄生、棟方志功、竹久夢二、畦地梅太郎ら、おなじみの文学者や芸術家をテーマにした手づくりの豆本ばかりではなく、硝子絵や陶板などを装幀に用いた大型特装本にも贅を凝らし、津軽の手仕事師として生涯を終えた蘭繁之の“美”への関心はとどまることを知りませんでした。彼はまた稀覯本や版画、焼き物など美術品の熱心な収集家でもありました。竹久夢二への思いはとりわけ深く、関連の品々を幅広く収集していました。本展では、没後に夫人の川村慶子氏（詩人／北海道出身）から当館に寄贈された多くの手仕事作品と、コレクションをもとに、“美”にこだわった津軽の奇才の足跡を紹介します。

蘭繁之



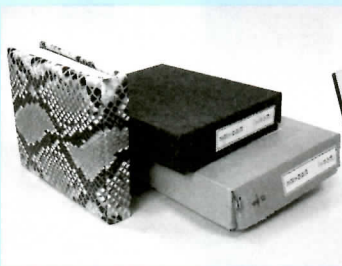
らん しげゆき・1920年～2008年

青森県弘前市出身。本名、藤田重幸。詩、俳句、童謡、装幀造本、版画などの分野で多彩に活躍した。1965年に「緑の笛豆本の会」を設立し、手仕事による豆本制作で全国に知られ高い評価を得ている。日本ペンクラブ会員、弘前ペンクラブ顧問。2000年、青森県芸術文化振興功労章を受章。著書に『夢二幻想』『蘭繁之句集』『童謡集 慈悲心鳥』などがある。

-WORKS



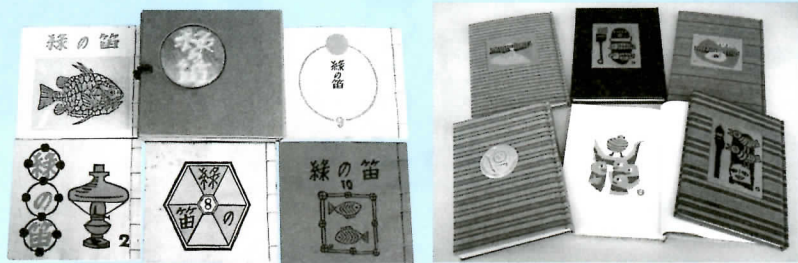
『緑の笛豆本』(1965～2004年／緑の笛豆本の会)



『蛇の目玉』畦地梅太郎著 (1971年／緑の笛豆本の会)



『夢二幻想』蘭繁之著 (1964年／緑の笛豆本の会)



『緑の笛』(1955～60年／緑の笛豆本の会)

『畦地梅太郎作品集』(1980～91年／緑の笛豆本の会)

-COLLECTION



『青い小径』竹久夢二著(1925年／交蘭社)
『夜の露台』竹久夢二著(1916年／千草館)



『寿多袋』(1967～69年／水曜荘文庫)



『洋燈と美人』底面

『洋燈と美人』川上澄生画 (1961年／木製／4.7×4.6×14.7cm)

関連事業のご案内

- 講演会**

「蘭繁之との30年／蘭繁之の手仕事」を語る
 講師 川村慶子(詩人) 桜井健治(文学研究者)
 5月29日(土) 14:00～ 当館講堂にて
 定員80名、参加無料、要申込(5/15(土)から電話受付開始)
- 展示室 講話**

「蘭繁之の“美”への関心」
 講師 平原一良(当館副館長)
 6月12日(土)、7月3日(土) 14:00～ 当館特別展示室にて
 展示室入場者は参加無料、申込不要
- 展示資料 熟覧会**

「手にして眺める特装本あれこれ」
 案内 今野沙紀(当館司書)
 6月19日(土)、7月10日(土) 14:00～ 当館特別展示室にて
 展示室入場者は参加無料、申込不要



Hokkaido Museum of Literature
北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931
札幌市中央区中島公園1-4
TEL.011(511)7655
FAX.011(511)3266
<http://www.h-bungaku.or.jp/>

【交通案内】
地下鉄 南北線中島公園駅(出口③)
または幌平橋駅(出口①)下車徒歩6分